

ナサニエル・ホーソン研究
Working Checklist: 2005-2006

川村幸夫（東京理科大学）
大野美砂（千葉商科大学）
奈良裕美子（明治大学・非）

I. Books

川窪啓資編 『ホーソンの軌跡：生誕二百年記念論集』 開文社（2005 年）
斉藤昇（訳・解説） ナサニエル・ホーソン著『わが旧牧師館への小径』 平凡社（2005 年）
古宮照雄・谷岡朗・小澤健志・小泉和弘（訳） ドナルド・A・リンジ著『アメリカ・ゴシック
小説——19 世紀小説における創造力と理性』 松柏社（2005 年）

II. Bibliographies

III. Translations

羽矢謙一（訳） D. H. ロレンス著 「緋文字をめぐる」 『D. H. ロレンス文学論集』 慧文社（2005 年）

IV. Articles

青井格 「物語に光をあてる——Nathaniel Hawthorne 論」 『かやのもり』 2
近畿大学産業理工学部かやのもり・研究報告論文編集委員会（2005 年），pp. 47-52.
阿野文朗 「ホーソンとストウ婦人——奴隷制度と南北戦争をめぐる——」
『ホーソンの軌跡』，pp. 245-265.
内堀奈保子 「アリス・ピンチョンの悲劇的交流——階級、ジェンダー/セクシュアリティ、
土地政策の視点から——」 『フォーラム』 11 日本ナサニエル・ホーソン協会（2006 年），
pp. 37-52.
大杉博昭 「揺れる三人の女性への愛憎——1858 年前後のホーソン」 『ホーソンの
軌跡』，pp. 207-223.
川窪啓資 「ホーソンの先祖をめぐる」 『ホーソンの軌跡』，pp. 1-19.
—— 「あとがき」 『ホーソンの軌跡』，pp. 363-365.

- 川村幸夫 「若返りの水——「ハイデガー博士の実験」に見られるホーソン文学の特徴について——」『英米文学評論』35(2005年), pp. 22-29.
- 城戸光世 「ホーソンの子孫たち——その文学的血統——」『ホーソンの軌跡』, pp. 287-314.
- 久保恭子 「ホーソンの芸術家像の変遷: "Drowne's Wooden Image"と"The Artist of the Beautiful"」『學苑』775 昭和女子大学(2005年), pp. 58-69.
- 倉橋洋子 「ホーソンとイタリア——『フレンチ・アンド・イタリアン・ノートブックス』を中心に——」『ホーソンの軌跡』, pp. 225-243.
- 古平ユキ 「ホーソンの理想と現実——"Rappaccini's Daughter"における女性観」『鶴見英語英米文学研究』6 鶴見大学大学院・鶴見大学(2005年), pp. 21-37.
- 柴田元幸 「生半可な漂流者(54)ウェイクフィールドの微笑」『大航海』55 新書館(2005年), pp. 8-11.
- 島田太郎 「まえがき」『ホーソンの軌跡』, pp. iii-v.
- 鈴木繁 「Hawthorne の The Blithedale Theater」『佐賀大学文化教育学部研究論文集』10(2) 佐賀大学文化教育学部(2006年), pp. 131-161.
- 高尾直知 「家庭崩壊の美学——ホーソンと宗教共同体的家庭改革——」『ホーソンの軌跡』, pp. 97-117.
- 高島まり子 「『税関』に漂う父性と母性のイメージ——ユングが照らし出すホーソンの内的世界——」『フォーラム』11 日本ナサニエル・ホーソン協会(2006年), pp. 19-36.
- 竹野富美子 「Silence Was Audible——*The Blithedale Romance*に見る音と音楽」『アメリカ文学研究』42 日本アメリカ文学会(2005年), pp. 1-14.
- 谷本千雅子 「産むく女——出産から疎外される女たち」『英語青年』151(8)(2005年), pp. 466-468.
- 玉井久之 「『罪』と『救い』をめぐって: ナサニエル・ホーソンの『緋文字』と丹羽文雄の『菩提樹』の比較研究」『研究論集』83 関西外国語大学(2006年), pp. 37-55.
- 富麻一太郎 「イギリスの名士たちの騒動——ホーソンの妻と息子の功罪——」『ホーソンの軌跡』, pp. 189-206.
- 「ホーソンとイギリス——『冷静に批評する観察者』——」『フォーラム』11 日本ナサニエル・ホーソン協会(2006年), pp. 1-17.
- 富樫壮央 「『大理石の牧神』にみる宗教衝突——ピューリタンとカトリックの対峙」『ふぉーちゅん』17 新生言語文化研究会(2006年), pp. 75-82.
- 中村善雄 「銀板写真にみる魔術と科学の二重露光——ナサニエル・ホーソンの『七破風の家』論」『比較文化研究』69 日本比較文化学会(2005年), pp. 73-80.
- 成田雅彦 「ホーソンと心霊主義——『ブライズデイル・ロマンス』をめぐって」『ホーソンの軌跡』, pp. 77-95.
- 西前孝 「出生から大学卒業まで——手紙にたどる若き日のホーソン」『ホーソンの軌跡』, pp. 21-44.

- 萩原力 「ホーソン文学の特徴」『ホーソンの軌跡』, pp. 169-188.
- 廣瀬真人 「“Wakefield”——環境の影響力とは——」『ふぉーちゅん』17 新生言語文化研究会 (2006 年), pp. 65-74.
- 藤村希 「年譜」『ホーソンの軌跡』, pp. 316-362.
- 藤吉清次郎 「ヒルダとは何者か——人種と宗教から見た *The Marble Faun* 論」『活水論文集 (英語学科・英語科編)』48 活水論文集出版委員会(2005 年), pp. 53-69.
- 松尾祐美子 「錬金術師と科学者の狭間で——マギの末裔、エイルマー」『ホーソンの軌跡』, pp. 59-76.
- 松阪仁伺 「『緋文字』のアーサー・ディムズデイル論」『兵庫教育大学研究紀要』26 兵庫教育大学 (2005 年), pp. 57-67.
- 松山信直 「ホーソンと E・A ポーの関係——接近と離反——」『ホーソンの軌跡』, pp. 119-144.
- 村田希巳子 「ホーソンと児童文学——古典神話再話の分析とその時代性」『ホーソンの軌跡』, pp. 45-58.
- 森本康敬 「Nathaniel Hawthorne の "Tales of the Puritans": 使用可能な過去としてのピューリタン時代史」『Core』同志社大学英文学会 Core 編集部(2005 年), pp. 89-107.
- 矢作三蔵 「ホーソンとソローとオルゴール」『ホーソンの軌跡』, pp. 145-167.
- 山本雅 「『主に戦争のことに関して』——ホーソンの後半生におけるその伝記的意義について」『ホーソンの軌跡』, pp. 267-285.
- Ramsey, David S. 「Nathaniel Hawthorne's Boyhood in Maine」『言語文化論集』26(2)名古屋大学大学院国際言語文化研究科(2005 年), pp. 207-219.
- "The Legible Landscape: Sources for the Sepulchral Setting of 'Roger Malvin's Burial'" 『言語文化論集』27(1)名古屋大学大学院国際言語文化研究科(2005 年), pp. 205-219.
- Sasaki, Eitetsu "Homosocial Pretension No More-Lovelessness in the Cognoscenti: Melville's *Billy Budd* as a Camp Story" 『英米評論』20 桃山学院大学(2006 年), pp. 57-100.

V. Reviews

- 鴨川卓博 『ホーソン・《緋文字》・タペストリー』(入子文子著)『フォーラム』11 日本ナサニエル・ホーソン協会 (2006 年), pp. 61-69.
- 渡辺利雄 『ホーソンの軌跡——生誕 200 年記念論集——』(川窪啓資編著)『フォーラム』11 日本ナサニエル・ホーソン協会 (2006 年), pp. 53-59.
- Tsutomu, Takahashi. "Hawthorne, *The Scarlet Letter* and Tapestry (Fumiko Iriko)" 『英文学研究』47(English number)日本英文学会(2006 年), pp. 290-296.

VI. Essays & Miscellanies

- 入子文子 「関西支部例会」『NHSJ Newsletter』24(2006 年), p. 12.

- 川村幸夫 「資料室だより」 『NHSJ Newsletter』 24(2006 年), pp. 13-14.
- 倉橋洋子 「中部支部例会」 『NHSJ Newsletter』 24(2006 年), pp. 11-12.
- 「編集後記」 『フォーラム』 11 日本ナサニエル・ホーソーン協会 (2006 年), p. 72.
- 高尾直知、中村文紀 「国際渉外室だより」 『NHSJ Newsletter』 24(2006 年), p. 14.
- 高橋利明 「東京支部研究会」 『NHSJ Newsletter』 24(2006 年), p. 11.
- 當麻一太郎 「会長挨拶」 『NHSJ Newsletter』 24(2006 年), p.1.
- 「事務局だより」 『NHSJ Newsletter』 24(2006 年), p. 15.
- 遊佐重樹 「仙台支部研究会」 『NHSJ Newsletter』 24(2006 年), p. 10.
- Kawakubo, Keisuke. "Hawthorne's Consciousness toward England." 『NHSJ Newsletter』 24(2006 年), p.7.
- Kawanishi, Ikuko. "Hawthorne's English Experience and English Romance." 『NHSJ Newsletter』 24(2006 年), pp. 5-6.
- Kawashita, Takeshi. "Crooked Sticks: A Criticism of Brook Farm Thrown on Hollingsworth" 『NHSJ Newsletter』 24(2006 年), pp.1-2.
- Nishimae, Takashi. "Human Activities as Pseudo-Sciences." (Workshop: Reading "The Birth-mark") 『NHSJ Newsletter』 24(2006 年), pp. 4-5.
- Ohno, Misa. "Aylmer's Quest for Whiteness: The Birthmark and True White Womanhood." (Workshop: Reading "The Birth-mark") 『NHSJ Newsletter』 24(2006 年), p. 4.
- Takahashi, Ai. "The Worth of 'Currency'" 『NHSJ Newsletter』 24(2006 年), pp. 2-3.
- Takashima, Mariko. "Nathaniel Hawthorne and C. G. Jung — Referring to 'The Custom House'—" 『NHSJ Newsletter』 24(2006 年), p.3.
- Takemura, Kazuko. "Toward the Future of Hawthorne Criticism." 『NHSJ Newsletter』 24(2006 年), pp. 8-10.
- Toma, Ichitaro. "Hawthorne and England 'A Cold and Critical Observer.'" 『NHSJ Newsletter』 24(2006 年), p.7.
- Tsuchida, Kuniyasu. "Hawthorne and Our Old Home." 『NHSJ Newsletter』 24(2006 年), p. 6.
- Tsuji, Shoko. "A False Alchemist, Aylmer: A Study of Hawthorne's Attitude towards 19th Century Science and Popular Novels." (Workshop: Reading "The Birth-mark") 『NHSJ Newsletter』 24(2006 年), p. 5.
- Yahagi, Sanzo. "Love and Chastity." (Workshop: Reading "The Birth-mark") 『NHSJ Newsletter』 24(2006 年), pp. 3-4.